

KIMOTO

CSRレポート 2011

Corporate Social Responsibility Report

環境側面での配慮について

本レポートは、環境負荷のより少ない植物由来のベジタブルインキを使用しております。今後もKIMOTOグループでは地球環境保全に向けたさまざまな取り組みを行ってまいります。



KIMOTO

株式会社 きもと

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-19-1

TEL. 03-3350-4701 FAX. 03-3350-9380

<http://www.kimoto.co.jp>



企業理念

KIMOTOは、技術開発型の企業としてグローバルに発展することにより、顧客・株主および従業員の満足を得ることに努め、地域の発展と繁栄に寄与し、地球環境をまもり、未来に向けて社会と共に前進します。



代表取締役社長

木本 和伸

東日本大震災にて亡くなられた方々、被災された方々にお悔やみとお見舞い申し上げます。

KIMOTOにおきましては、地震発生後直ちに被災地に住むKIMOTO従業員、OB、お取引先の皆様に物資面で救援をさせていただきました。しかし、これは単に救援のスタートにすぎず、私たちは少しでも多くの皆様に『生きがい』を取り戻していただけますよう、今後長期間にわたり、できることはすべて実行させていただきたく所存です。

1952年7月に有限会社きもと商会として産声を上げたKIMOTOは、2012年に設立60周年を迎えます。この間にKIMOTOは、地域の皆様、お取引先の皆様そして従業員に対して、さまざまな社会貢献活動を行ってまいりました。その時々には十分に検討し実施したプロジェクトではありましたが、年がたつにつれて、担当が変わり、当初の志が失われ、いつしか行われなくなっていくことが多く、その継続性について振り返りますと10年以上続いたプロジェクトが皆無に等しいのが現状です。また、わずかに継続している活動については、担当者にその意味を尋ねても明確な回答を得られませんでした。

CSRレポートを発行するようになってから、KIMOTO従業員の多くがCSR活動に参加し、毎年数多くの活動をいたしてまいりましたが、残念ながら継続性は過去と同じで長期にわたるプロジェクトがありません。

昨年の本レポートでご報告いたしましたKIMOTOファームプロジェクトが活動を開始いたしました。まずは三重工場の地元である三重県いなべ市北勢町で37アールの水田をお借り



社員による作付け作業



作付け後の水田

し、2011年5月に「コシヒカリ」の苗を作付けしました。今後はいなべ市のご協力も得て、畑として開墾できる土地や、従業員とその家族が宿泊できる空き家をお借りする予定です。10年以上継続するプロジェクトとすべく、歩を進めてまいります。

東日本大震災という未曾有の災害に直面し、私たちが学び誓ったことは被災された皆様を長期にわたり支援することです。

KIMOTOのCSR活動も6年目を迎え、活動の本質を改めて見直す時期が来ています。

少なくとも10年以上継続して活動するプロジェクトをいかに多く輩出するかが、会社を取り巻く皆様との信頼関係の向上と私たちの自信になると確信しています。

景気の動向に左右されず、方針がぶれることのないよう全世界にKIMOTOチームが地域貢献を継続できるようにこれからも勉強を継続させてまいります。



徹底した品質管理を支える KIMOTOのグローバルネットワーク

KIMOTOのグローバルネットワークは安心・安全な社会への貢献のため
徹底した品質管理と環境保全を行ってまいります。



1 KIMOTO 茨城工場

茨城工場は、茨城県の古河市に位置し、1969年に新設した当社でもっとも古い工場です。敷地内には、株式会社キモテクノ茨城工場を併設しております。両工場合わせて従業員数109名で、設計・製図業界向けフィルムおよびフラットパネルディスプレイ用フィルムを生産しております。顧客の高品質要求に応えるべく、従業員一同品質向上に取り組んでおります。



2 KIMOTO 三重工場

三重工場は、三重県の最北端いなべ市に1979年に新設し、10万6千平方メートルの敷地に236名が働いています。独自の塗布技術を活かしてタッチパネル用ハードコートフィルム、液晶バックライト用光拡散フィルム、基盤作成用フィルムなどの電子工業分野の各種の高機能フィルムを生産しており、クリーンルームを有した当社の主力工場です。また同敷地内には、液晶バックライト用光拡散フィルムの加工専用工場のキモテクノ三重工場も併設しております。



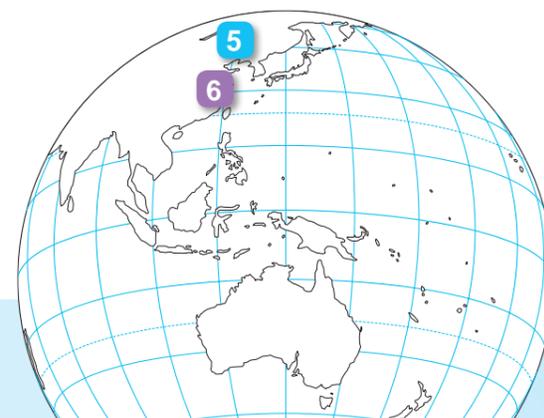
3 KIMOTO POLAND Sp.z o.o. (ポーランド共和国)

KIMOTO POLAND Sp.z o.o.は世界遺産であるトルン旧市街近郊に立地し、広々とした環境の中、総勢33名で液晶テレビ用部材(主に光学用フィルム)の加工を行っています。2008年3月の創業から3年が経ち、日進月歩、培われた技術力を自負しています。アットホームな社風でありつつ、社員全員が一丸となって、安定した品質の維持向上をモットーに、顧客満足度の高い会社を目指します。



4 KIMOTO AG (スイス連邦)

KIMOTO AGは欧州のほぼ中央、スイス・チューリッヒ郊外に立地した販売拠点で、総勢10名のスタッフにより、産業用インクジェットプリントシステム(Freejetシリーズ)、および各種フィルム製品の販売を行っております。2011年度は「Prosave」、「Window Film」といった「新製品」の拡販を通じ、欧州地区での新たなビジネスチャンスを開拓するとともに、さらなる顧客満足の実現を目指してまいります。



5 瀋陽木本実業有限公司 (中華人民共和国)

瀋陽木本実業有限公司は1991年に中国に設立し、2011年で20周年を迎えます。創業時より地理情報のシステム開発とデータ構築業務を行ってまいりましたが、近年はDTPデザイン、中国国内へのKIMOTO製品の販売、出力サービスKIMOSHOPなど多角的な事業展開を図っています。社員はバ



6 木本新技術(上海)有限公司 (中華人民共和国)

木本新技術(上海)有限公司の事業内容はKIMOTO製品を輸入して、中国で販売することです。取り扱う製品は電子工業用材料から、グラフィックス、サイン、環境製品まで幅広く担当しています。現在の従業員数は11名で平均年齢は28歳と比較的若く、いきいきと仕事に取り組んでいます。

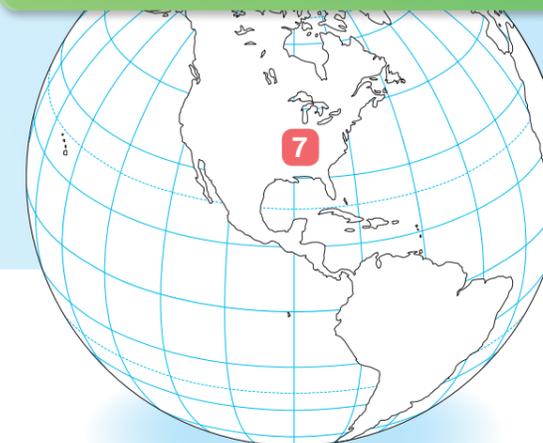


KIMOTO 全社員数

	所在国	正社員(人)
株式会社きもと	日本	626
株式会社キモテクノ	日本	14
KIMOTO TECH, INC.	アメリカ合衆国	72
KIMOTO AG	スイス連邦	10
KIMOTO POLAND Sp.z o.o.	ポーランド共和国	33
瀋陽木本実業有限公司	中華人民共和国(瀋陽)	144
木本新技術(上海)有限公司	中華人民共和国(上海)	11
合計		910

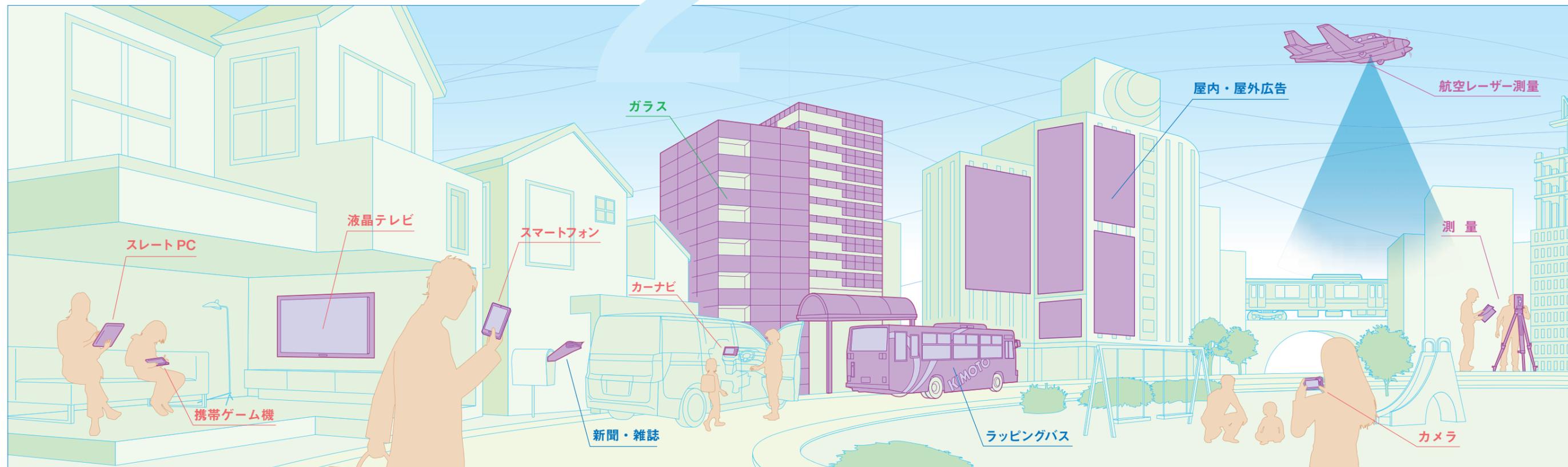
7 KIMOTO TECH, INC. (アメリカ合衆国)

KIMOTO TECH, INC. は、米国南部のジョージア州シーダータウンに工場と中西部のイリノイ州および西部のカリフォルニア州にセールスオフィスがあります。従業員は72名です。ジョージア工場で製造しているハードコートフィルムやキモプレート、シルクスクリーン用フィルム等の米国生産品を全世界へ供給しています。フラット化によって、世界が一つの市場になる中で、地理・距離・時間に関係なく幅広いビジネスを目指しています。

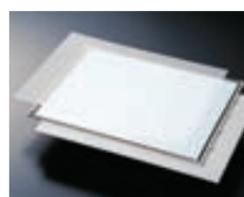


KIMOTOの製品と社会

薄型テレビ、携帯電話、OA機器、カメラ、印刷資材、広告、掲示板、地理空間情報システム——
 えっ、こんなところに、と思える意外なもの、意外な場所でKIMOTOの製品が活躍しています。
 今日、あなたはいくつのKIMOTOに出会うでしょうか。



エレクトロニクス



ライトアップ(光拡散フィルム)は、液晶画面の輝度向上、光ムラを解消するフィルムです。液晶テレビ、パソコン、モバイル機器、携帯ゲーム機などの明るくきれいな表示に役立っています。



プロセーブは精密部品の製造・加工工程で弱粘着性能を利用して仮止めをするフィルムです。小型部品の飛散防止などに役立っています。



KB フィルム(ハードコートフィルム)はタッチパネル製品の表面に使用され、表面が傷つくことを防いでいます。スマートフォン、携帯ゲーム機、カーナビ、スレートPCなどに使用されています。



カーボンフェザー(黒色導電性フィルム)は、一眼レフ、デジタルカメラ、ビデオカメラなどの光学機器の絞りやシャッター羽根に使用されているフィルムです。ポリエステル素材ですので、金属より軽く、耐久性、遮光性にも優れています。

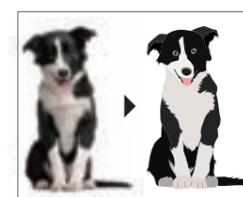


キモテクトは電子製品などのプリント基板製造の回路作成時にフォトマスクの保護用として使用されるフィルムです。プリント基板製造の安定化と効率化に役立っています。



エクシプライムは耐衝撃性に優れた高剛性プラスチックシートです。携帯電話やスマートフォンの液晶パネル表面を保護する前面板への採用を目指しています。モバイル機器の薄型化や軽量化の一翼を担う製品として期待されています。

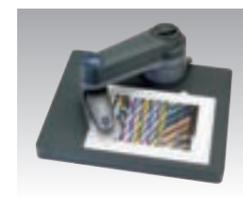
グラフィックス



DTP EXPRESSは、画像の切り抜き、トレース、レイアウトなどのDTP業務をホームページでお請けするサービスです。チラシや商品カタログの制作など、高品質できめ細かい作業を短納期で行います。



キモセッター 525 は、印刷業務のCTPシステムの出力機(プレートセッター)です。インクジェット技術を利用して印刷版を作成し、コスト削減、環境保護、業務の効率化に役立っています。



カラーマネジメントツールは印刷業務のデザインから色校正、最終印刷物までの色管理を行い、印刷物の品質の安定性確保に役立っています。

地理空間情報システム



地理空間情報システムは官公庁や公益企業の業務で構築された地図や台帳類の情報をデータ化し、コンピュータ上で空間的に管理、運用するシステムです。

ウィンドウフィルム



グラステクトは窓ガラスの内側に貼ることで、災害時にガラスが飛散することを防ぎ、合わせて紫外線をカットする効果のあるフィルムです。



ラククリーンは光触媒の性能を利用した自浄作用のある窓ガラス用外貼りフィルムです。紫外線と雨などの水の力で付着した汚れを洗い流します。洗浄しにくい屋外看板や標識、天窓などに使用されています。

KIMOTOの社会貢献活動

より良い社会の実現に向け、世界各国の人々とコミュニケーションを通じ、市民社会への貢献活動を行ってまいります。

きもと・学童野球教室

コミュニケーション部会では、2010年12月5日(日)、三重工場の敷地内にあるKIMOTO球場で「きもと・学童野球教室」を開催いたしました。

このイベントは、KIMOTOが地域貢献の一環として、また、いなべ学童軟式野球協会に所属している市内と東員町14チームの選手の皆さんの技術向上を目的に開催をいたしました。5日は、257名の選手たちに、午前・午後の二部に分かれ、それぞれ3時間にわたり参加していただきました。ご指導いただいたのは、元プロ野球選手で中日ドラゴンズOBの北村俊介様を塾長として、名古屋を中心に小中学生に野球の指導を行っているKS野球塾の講師の皆様です。

最初に全員で腹筋、背筋など体幹を鍛える種目を行いました。これは実際にプロ野球選手のトレーニング法としても取り入れられているそうです。その後バッティング、キャッチボール、捕球、走塁と4チームに分かれ各30分の熱のこもった指導が行われました。

野球教室後のアンケート結果では、全員の方が今後も野球教室があれば参加したいとのことで大変好評でした。

「盲導犬体験デー」の参加

2009年10月より、KIMOTOでは盲導犬募金を実施していますが、それがどのように活用されているのか体験してきました。

2010年9月5日(日)公益財団法人日本盲導犬協会 神奈川訓練センター(神奈川県横浜市)にて、盲導犬体験デーがありコミュニケーション部会より4名で参加いたしました。

このイベントでは目隠しをして盲導犬とともに歩き、障害物や段差を避ける体験歩行が行われていました。

神奈川訓練センターでは約80頭の盲導犬を犬舎にて飼育しています。しかし、盲導犬としての適性もあり活躍できる数は半数になってしまうそうです。ここでは飼い主と盲導犬との共同生活が順調にいくように宿泊施設を備え、1ヵ月に及ぶ共同生活を経て自宅に連れて帰ります。

今回の体験デーを通して感じたことは、盲導犬の数が不足しているということです。申し込んでから盲導犬が来るまで1年以上かかってしまいます。(現在盲導犬は約1,000頭ですが、盲導犬との生活を希望している人は約7,800名もいます。)このような理由から盲導犬の育成に少しでも協力したいとの思いがますます強くなりました。



「ふるさと清掃運動会 in 荒川」に参加

コミュニケーション部会では、2010年11月6日(土)に「ふるさと清掃運動会 in 荒川」(荒川の清掃活動)に参加いたしました。

全参加者約140名は大きく4班に分かれ、各班にて荒川に沿った約400mの範囲で清掃活動を実施いたしました。ゴミは、①燃えるゴミ ②燃えないゴミ ③リサイクルゴミ(空き

缶、PETボトル等)に分けて回収します。

スタート時は、どの位のゴミが回収できるのかと思いましたが、「一人ひとりができることは小さくても、多くの人に参加すれば大きな力になる」と思うほど多くのゴミが回収されました。

今後もこのようなイベントに参加し、「まずは自分の周りから変えていく=できることからスタートする」の視点で環境保護について考えていきたいと思えます。



KIMOTOグループのCSR活動全般をより広くお伝えするために、関連した数値情報について開示を進めてまいります。開示内容に関しては、随時見直しを行い、KIMOTOグループらしいCSR活動の向上に努めます。

KIMOTOは、公正な企業活動を旨とし、株主様をはじめとするKIMOTOとかかわりのある皆様に対する責任を全うするため、常に十分な説明責任を果たします。

活動内容	2009年度結果	2010年度結果
社会性		
正社員数 日本【名】	630	626
男性 正社員数【名】	515	512
女性 正社員数【名】	115	114
採用社員数(新卒+キャリア)【名】	20	11
取締役数【名】	7	6
監査役数(社外監査役含む)【名】	4	4
平均年齢	38歳5ヶ月	39歳1ヶ月
平均勤続年数	15年3ヶ月	15年10ヶ月
女性管理職数【名】	3	11
労働災害件数【件】	3	12
労働災害発生率(=労働災害による死者数×1,000,000/延労働時間数)【%】	2.22	8.36
労働災害強度率(=(労働損失日数/延労働時間数)×1,000)【%】	0	0.05
休業災害件数【件】	3	3
労働損失日数【日】	3	74
出産休暇制度 利用者数【名】	4	2
育児休暇制度 利用者数【名】	5	5
育児のための短時間勤務制度 利用者数【名】	8	10
イベント休暇利用人数【名】	49	44
IRニュース配信回数【回/年】	2	2
配当額【円/年】	10	7
エコキャップ回収数【個】	38,728	34,881
支店、工場周辺清掃 開催回数【回/月平均】	1~2	1~2
KIMOTO杯スポーツ少年団軟式野球大会開催【年間開催回数・回/参加人数・名】	1/1,000	1/800
まもらいだー参加車両数【台】	7	4
社会福祉法人 東京都共同募金会(赤い羽根募金)【円】	55,271	50,000
日本盲導犬協会寄付金、未使用ハガキ・切手回収【円】	13,577	19,546
インターンシップの受け入れ人数【名】	2	6
交通安全講習会実施回数【年間開催回数・回】	1	1
防災訓練回数【年間開催回数・回】	2	2
環境		
CO ₂ 排出量(エネルギー+非エネルギー起源)【t】	14,096.1	15,448.0
電力使用量【千kwh】	16,439.0	17,704.8
水使用量(工業用水+井戸水)【m ³ 】	308,285.0	317,507.0
水道水使用量(上水)【m ³ 】	9,521.0	8,757.0
燃料使用量(原油換算)【m ³ 】	1,997.6	2,114.5
重油【kL】	1,228.4	1,197.2
灯油【kL】	746.1	720.8
ガソリン【kL】	16.9	18.3
LPG【t】	0.2	0.1
コピー紙使用量(コピーカウント数)【千枚】	937.5	840.0
廃プラスチック発生量(産業廃棄物+有価物)【t】	1,677.3	1,807.3
有機溶剤使用量【t】	1,423.8	1,666.0
廃溶剤発生量(特別管理産業廃棄物)【t】	390.5	399.2
ビリジン【t】	—	—
ホルムアルデヒド【t】	—	—
アセトニトリル【t】	—	—
2-アミノエタノール【t】	—	—
クロロホルム【t】	—	—
ジクロロメタン【t】	—	—
トルエン【t】	409.0	478.8
N,N-ジメチルホルムアミド【t】	—	—
廃油発生量(普通産業廃棄物)【t】	52.8	41.0
一般廃棄物発生量(事業系一般廃棄物)【t】	174.6	126.7
産業廃棄物排出量【t】	2,295.0	2,384.4
環境監査指摘件数【件】	21.0	29.0
有害物質管理対象数【件】	26.0	26.0
経済性		
売上高【百万円】	22,948	24,784
経常利益【百万円】	297	1,515
営業利益【百万円】	240	1,534
当期純利益【百万円】	116	834
純資産【百万円】	17,763	18,319
法人税等(調整額含む)【百万円】	118	657
研究開発費【百万円】	989	1,020

※1 社会性・環境の数値は単体 ※2 経済性の数値は連結ベース

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

KIMOTOグループは、取締役会、監査役会を基本に継続的なコーポレート・ガバナンスの充実が経営の最優先課題であると考え、諸制度の整備と透明性の高い情報開示の実施を適時行うとともに、高い自律性、効率性ならびに競争力のある経営体制の確立を目指し、企業価値の向上を図っております。

KIMOTOにおいては、株主の皆様に対する経営陣の責任を明確化するため、取締役の任期を1年としております。また、経営会議、常務会等を設置せず、重要な業務執行および法定事項の決定ならびに業務執行の監督は、すべて取締役会で行っております。常勤監査役および社外監査役は、定例に開催されるすべての取締役会に出席し必要な意見を述べるとともに、取締役の業務執行状況の監査を実施しております。

KIMOTOは、以上のようなコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づく諸施策を実行し、企業価値または株主共同の利益の確保・向上を目指してまいります。

内部統制システム評価体制

KIMOTOではグループ会社も含め「財務報告に係る内部統制」の評価を2008年度より実施しております。内部統制システムの整備、運用に係る不備、統制不足が見受けられた場合にも、すばやい改善を図る体制を構築しております。

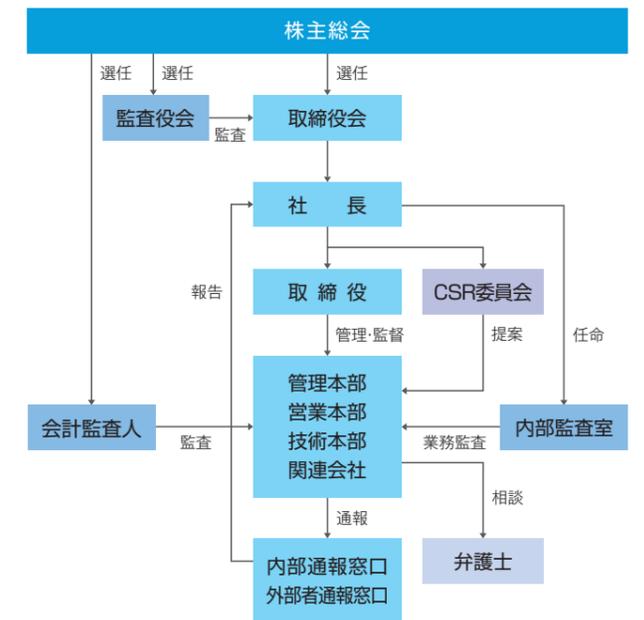
今後も、「財務報告に係る内部統制」のさらなる有効性確保のため、KIMOTOグループ全従業員が力を合わせてまいります。

リスクマネジメント

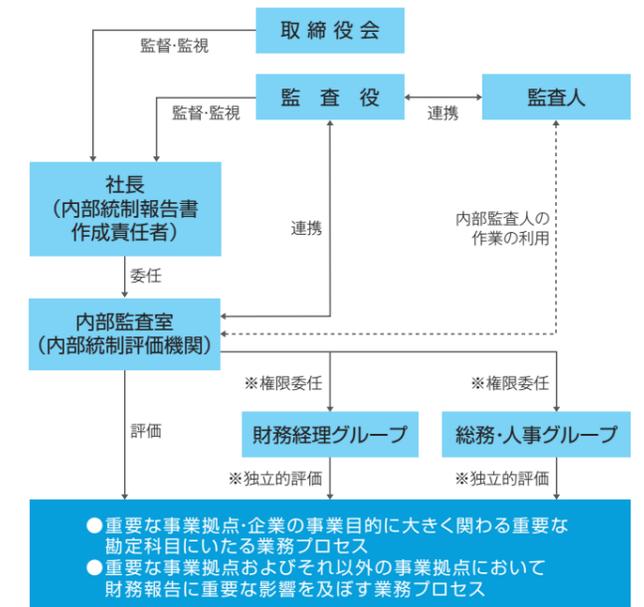
2010年度は、得意先倒産対策、交通安全、情報漏洩のリスクチェックを実施し発生時の対処方法を確認いたしました。

交通安全では、従業員の運転者すべてに自己診断テストを行い、その結果を基に注意を喚起する交通安全講習会を各地で実施しました。

年度の終わりに東日本大震災に見舞われ、安否確認システム、災害時のTo Doリスト、災害用の備蓄品等をより一層充実させていく考えです。



財務報告に係る内部統制の評価体制



- 重要な事業拠点・企業の事業目的に大きく関わる重要な勘定科目にいたる業務プロセス
- 重要な事業拠点およびそれ以外の事業拠点において財務報告に重要な影響を及ぼす業務プロセス

社会の中で、社会とともに。KIMOTOは、社会に開かれた企業として、本業をとおり社会的な役割を全うします。

株式会社きもと CSR基本方針

株式会社きもとは、事業活動に伴い生み出される経済的価値のみに着目することなく、自発的に社会的価値と責任を重視し社会の持続的な発展に貢献する経営を行うために、以下の方針を定める。

- ・事業活動にかかわる法律を遵守し、善良な企業あるいは企業人としての姿を追求する。
- ・環境保全活動に注力し、可能な限り環境負荷を低減する事業活動を展開する。
- ・顧客重視の事業活動を行うことで、顧客との相互発展を通じて社会貢献を目指す。

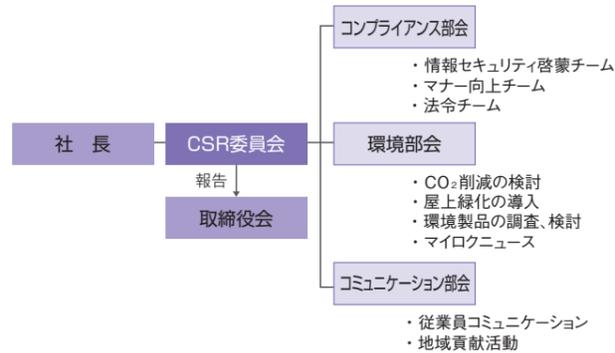
CSR推進体制・部会活動について

KIMOTOでは、2005年にCSR委員会を発足しました。CSR委員会には、「コンプライアンス部会」「環境部会」「コミュニケーション部会」の3部会が設置されています。「コンプライアンス部会」は、マナーや法令などを中心に活動し、「環境部会」は環境にやさしい会社を目標に調査、検討を重ねております。また、「コミュニケーション部会」はKIMOTOとかかわりのある人々を中心にさらにコミュニケーションをよくすることを目標に、数多くのイベントを中心に活動しています。

KIMOTOでは、今後もさらに充実したCSR活動を行っていきたくて考えております。

情報セキュリティ啓蒙活動

コンプライアンス部会では、今までの活動を振り返りもう一度啓蒙活動が必要な内容について焦点を当てた活動を行いました。具体的には日々脅威が変わる情報セキュリティに関する啓蒙資料の作成を行いました。従業員の情報セキュリティに対する意識調査などから、日々の業務中に従業員に行っている欲しい情報セキュリティ対策を選定し、啓蒙資料を作成し公開しました。



KIMOTOは、公正な企業活動を通してかかわりのある皆様への説明責任を果たすため、より良い取り組みを模索し、常に前進してまいります。

ビジネスマナー講習会の開催

コンプライアンス部会マナー向上チームでは、社内におけるビジネスマナー向上を目的として、マナー講習会を実施いたしました。独自に作成した「マナー冊子」と「マナービデオ」を利用して、わかりやすくビジネスマナーを学べるよう工夫しました。講習会開催前後に、「お客様と打合わせをする際、相手3名の名刺と自分の名刺入れはどのように置きますか」などのビジネスマナーの問題を解き、自らのマナー知識についての再確認を行いました。



第二回フォトコンテスト

2009年に引き続き、2010年9月から2010年10月まで「KIMOTO事業所のある地域で撮った季節感のある風景・行事」をテーマに「第二回フォトコンテスト」を開催しました。日本をはじめ、すべての海外関連会社から129点の応募があり、それぞれの国や地域の特徴、季節感が感じられるとて素晴らしい作品ばかりでした。

今回はCSR委員会のすべての委員が審査員として参加し、入選者を決定しました。どの作品も甲乙つけがたく、大変困難な審査となりました。最優秀賞にはポーランドのトルン市街の夜景が選ばれました。降る雪がストロボで輝き、雪の結晶の形をしたイルミネーションとの相乗で幻想的な作品です。

すべての応募作品はネット掲示板により全社員へ公開し、入選作品12点は卓上カレンダーにして、応募者全員に配付しました。



KIMOTO は低炭素社会に貢献するため、環境法令を守り、目標を立てて環境改善に取り組み、責任を果たしてまいります。

マイロクニュース (環境冊子)

環境部会では、「マイロクニュース」という社内報を作成しています。家庭やオフィスでできる身近なエコ活動の紹介から、エコポイントや各種補助金制度といった役立つ情報、さらにはCO₂による温室効果といった地球規模での環境問題まで幅広い記事を掲載してまいりました。

発行を重ねるごとに従業員からの反響も大きくなってき

ており、今後も従業員の環境に対する意識向上を呼びかけてまいります。



屋上緑化計画について

さいたま市の技術開発センターにおいて、屋上緑化の導入調査を行っています。

センター建屋の耐荷重を考慮し、軽量の緑化方法である苔の育成を行うことになりました。苔の植えられたマットを設置し、雨水のみでの生育状態を確認しています。成長した苔は降雨により豊富な水を得た場合、綺麗な緑になり目を楽しませてくれます。好天等で乾燥している場合でも内部では水分を保持し、急激な温度上昇から建物を守ってくれます。



環境活動啓蒙動画について

環境部会では、環境に対してKIMOTOでは何ができるのかを従業員に知ってもらうためにCO₂排出量などの啓蒙動画を作りました。事業所ごとに閲覧し、後にアンケートを回収した結果、少々厳しい意見もありましたが「これを機に少し環境問題を気にするようになりました。」という感想が多く啓蒙動画はこれからの生活の上で大きく役に立ったのではないかと考えております。

また、厳しい意見などは次回作に反映し、すばらしい啓蒙動画を作成してまいります。



茨城工場ボイラー燃料転換について

KIMOTOは地球環境問題の解決に向けた活動として工場から排出される温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

そのひとつとして2010年10月に茨城工場のボイラー燃料に使用しているA重油を天然ガスに転換する工事を行いました。

この結果、燃料転換後4ヶ月間で削減できたCO₂排出量は熱量換算で99トンとなりました。この量は茨城工場が2009年度1年間にボイラーで発生させたCO₂総排出量740トンの約13%を削減した計算になります。

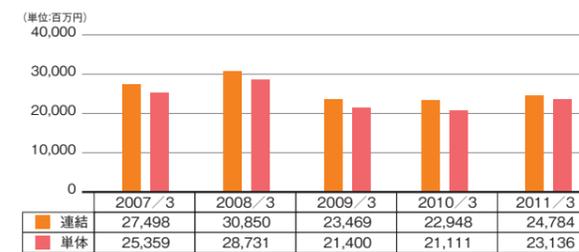
会社概要

名称 株式会社 きもと
所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿二丁目19番1号
設立 昭和27年7月2日
資本金 32億7,400万円
従業員 626名(平成23年3月末日現在)
営業拠点 本店/東京都新宿区
支店/札幌市、仙台市、名古屋市、大阪市、福岡市
営業所/つくば市
海外事務所/台北(台湾)

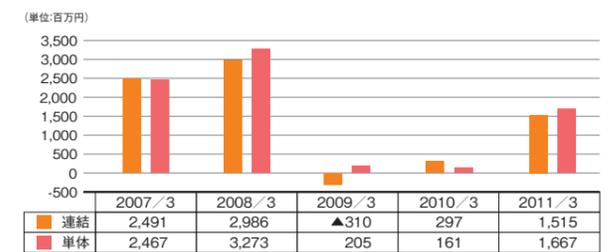
工場 三重県いなべ市、茨城県古河市
技術開発センター 埼玉県さいたま市
国内関連会社 株式会社 キモテクノ(東京都)
海外関連会社 KIMOTO TECH,INC.(アメリカ合衆国)
KIMOTO AG(スイス連邦)
KIMOTO POLAND Sp. z o.o.(ポーランド共和国)
瀋陽木本実業有限公司(中華人民共和国)
木本新技術(上海)有限公司(中華人民共和国)

財務情報

売上高



経常利益



編集方針

この「CSRレポート」は、KIMOTOグループの2010年度(2010年4月~2011年3月)のCSR(企業の社会的責任)活動についてまとめた報告書です。当社グループは技術開発型企業としてグローバルに発展することにより、地域の発展と繁栄に寄与し、地球環境をまもり、未来に向けて社会と共に前進すべく、CSR活動を推進してまいりました。本報告書は、当社グループとかかわりのある皆様、すなわちお取引先の皆様、株主・投資家の皆様、地域の皆様、ならびに従業員各位にお読みいただきたいと考えております。

2010年は、2009年版の冊子の内容を継続して、特集形式での活動報告とトピックス、CSR活動全般の報告と成果を情報開示すべくデータ・マップの二部構成にてまとめております。これからも読者の皆様のご意見をいただきながら、読みやすく、わかりやすい報告書を目指し、発行を続けてまいりたいと考えております。

対象期間:

2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日まで)活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

発行時期:

2011年6月(次回2012年6月予定、前回2010年6月)
参考にしたガイドライン:「環境報告ガイドライン2007年度版」